

第5学年2組 音楽科学習指導案

指導者 村田 美香

1 題材名 曲想を味わおう

教材名 鑑賞「威風堂々 第1番」 エルガー作曲

表現「威風堂々」 エルガー作曲／長谷川匡俊編曲

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

A 表現 (1) イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。

(2) イ 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。

B 鑑賞 (1) ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。

〔共通事項〕(1) ア (ア) 音色 リズム 速度 旋律 強弱 音の重なりや和声の響き

(イ) 反復 変化 音楽の縦と横の関係

(1) 題材観

本題材は、音楽を感じ取って器楽の表現を工夫する能力を育てるために、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること、また、楽曲を全体にわたって感じ取る能力を育成するために、曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くことをねらいとしている。高学年の児童は、論理的な思考力が高まるとともに、美へのあこがれや探求心が高まり、協力し合って一つのものをつくり上げる社会性も発達してくる。ここでは、低学年や中学年において身に付けてきた基礎的な器楽の能力を更に高め、楽器の特徴を生かしてその組み合わせや表現効果を工夫し、思いや意図をもって演奏する喜びを一層味わうようにさせていきたい。児童はこれまでに、既習の「リボンのおどり」で、いろいろな楽器の特徴を生かして、各パートの重ね方や反復、変化、全体の響きのバランスなどを考え、いろいろな思いや意図をもって演奏する学習をしてきた。このことを踏まえ、本題材では、曲想とその変化などの特徴を感じ取る鑑賞の学習を生かして、器楽の学習において、児童自らがその感性や創造性を発揮しながら、自分にとって価値のある新しい器楽の表現をつくり出し、友達と聴き合ってそのよさを認め合えるようにしていきたいと考える。

(2) 児童の実態 (男子15名 女子16名 計31名)

本学級の児童は、鑑賞や器楽の学習に進んで取り組み、表現活動を主体的に進める児童が多い。しかし、個人差があるため、消極的になる場面もみられるので、どの児童も自信をもって活動するようにしていきたい。歌唱では既習の「いつでもあの海は」で、歌詞の内容、曲想を生かした表現で歌う活動をしてきた。そこで、本題材では器楽表現において、どのように演奏したいか、自分の思いや意図をもって工夫して表現できるようにしたい。そのために、まず、児童の心をゆさぶる鑑賞曲との出会いから、自分も演奏してみたいという意欲をもたせ、主体的に器楽表現に取り組むようにしていきたい。鑑賞と器楽の学習の関連を図り、児童が自分たちだけの器楽表現を目指すことにより、どの児童も自信をもって表現活動に取り組めるものとする。そして、自分の思いや意図を生かして表現する活動を重ねながら、互いに合わせて一つの合奏をつくり上げるというグループアンサンブルの楽しさや喜びを味わわせたい。

(3) 指導観

本題材では、器楽の教材と同様の、エルガー作曲「威風堂々 第1番」を鑑賞教材とする。「威風堂々

第1番」は趣の異なる AB 二つの部分からできており、楽曲の構造がとらえやすく、同じ旋律でも楽器が変わり、その音色の変化を楽しむことができる。また、ゆったりした B の部分は、歌詞がつけられてイギリスの第二国歌のように愛唱されている。コンサートのライブ映像で、聴衆が歌ったり踊ったりし、イギリス国民に愛されている様子を鑑賞することにより、子どもたちの心に親しみと感動を呼び起こし、音楽の学習により意欲をもって取り組むことを期待する。本題材では、鑑賞で味わった「威風堂々 第1番」の感動を器楽表現の意欲につなげ、8人のアンサンブルでは、一番盛り上げたい部分（クライマックス）をどこにするかということに焦点を当てて、どのように演奏するかについて、一人一人の思いや意図を強くもてるようにする。そして、世界にたった一つの自分たちの「威風堂々」をつくり上げていく喜びを味わわせたい。

また、すべての音楽活動の支えとなる「音楽を形づくっている要素」について、児童は、身近な表現活動の気付きや音楽の学びに、「音楽をもっとすてきにする観点」として着目し、生かしているところである。更に本題材では、クライマックスを考えることによって、手掛かりになる「音楽を形づくっている要素」を明確にし、学習過程に意図的に取り入れ、鑑賞や歌唱や器楽の活動に生かしたり、お互いに聴き合う活動で確かめ合ったりするようにし、主体的に表現する児童の姿を目指していきたい。このことによって、本題材を終えてまた新しい課題に立ち向かったときにも、児童自ら表現や鑑賞の活動に生かせる観点となるような展望をもっている。

3 題材の目標

- ・「威風堂々 第1番」の曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く。
- ・自分たちの思いや意図をもって、強弱や速さ、音色、音楽の縦と横の関係などを工夫し、「威風堂々」を演奏する。

4 評価規準

| 音楽への関心・意欲・態度 | 音楽表現の創意工夫 | 音楽表現の技能 | 鑑賞の能力 |
|---|--|--|---|
| ① 「威風堂々 第1番」の鑑賞から、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって、原語の歌詞で歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ② 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 | ① 強弱、速度、音色、音の重なり、音楽の縦と横の関係などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。 | ①自分の思いや意図をもち、グループで考えたクライマックスが効果的になるような表現で演奏している。 | ①ABが繰り返されること、Bの音色、強弱、速度等が変化していくことなど、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴いている。 |

5 研究の視点について

【視点1】表現と鑑賞を関連させた題材構成

○鑑賞の学習でとらえた「音楽を形づくっている要素」を表現の学習で生かす

「威風堂々 第1番」の鑑賞からの感動を、自分たちの表現の工夫につなげていく。どこがクライマックスになるかをグループごとに考え、そのクライマックスが効果的になるように、反復の仕方、楽器の組み合わせ、強弱や速度の変化などを工夫し、自分たちの思いや意図が伝わるように演奏していくようにする。鑑賞の学習で用いた楽曲の構造図を表現の学習でも適宜示して活用する。

【視点2】思いや意図をもって表現したり、音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする力の育成

○思いや意図を表すワークシートと拡大譜の活用

児童はどこにクライマックスをおくかを個人のワークシートで考える。それをグループで出し合い、拡大譜に強弱記号などのマグネットカードを貼って試奏しながらつくり上げていくようにする。この拡大譜はグループで演奏するときだけでなく、そのグループの演奏を聴く場面でも活用でき、演奏の工夫がどこに表れるのか、観点をもって聴くことができる。また、ワークシートは個人の演奏の仕方についても書き込めるようにし、自分の演奏に対する思いや意図を表し、その過程を記して考察し演奏を高めるように活用したい。

6 題材の指導計画（6時間計画）

| 次 | 時 | ○学習内容 ・主な学習活動 | 評価規準 |
|-----|---|---|--|
| 第一次 | ねらい 「威風堂々 第1番」がどのような曲かとらえる。 | | |
| | 第1時 | ○イギリスのプロムナードコンサートの演奏を鑑賞し、曲の感じをつかむ。 ・イギリスの国民から第二国歌のように親しまれていることを感じ取ったり、全体の構造をとらえたりする。 | ABが繰り返されること、Bの音色、強弱、速度等が変化していくことなど、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴いている。 (鑑賞の能力①) |
| 第二次 | 第2時 | ○Bの部分を演奏し、曲の感じをつかむ。 ・英語の歌詞を歌って主旋律に親しむ。 ・主旋律などを演奏し、拍の流れを感じ取って全体の構造をとらえる。 | 「威風堂々 第1番」の鑑賞から、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって、原語の歌詞で歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度①) |
| 第二次 | ねらい 自分たちの思いや意図をもって、クライマックスのある「威風堂々」を演奏する。 | | |
| | 第3時 | ○音色や強弱、速度の変化を感じ取って聴く。 ・音色の変化とともに、強弱も変化していること、速度が揺れる部分があることを確認する。 ○自分たちのグループの工夫を考える。 ・鑑賞で感じ取った演奏の工夫や個々のワークシートを活用して、8人でどのような合奏をしたいか話し合い、パートを決め、各パートの練習をする。 | 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度②) |
| | 第4時 | ○楽器の組み合わせや強弱、速度を工夫し、楽しみながら演奏する。 ・どこをクライマックスにするか考え、それを効果的に表現できるように、強弱・速度・楽器の組み合わせ、繰り返し等を工夫して練習する。 | 強弱、速度、音色、音の重なり、音楽の縦と横の関係などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。 (音楽表現の創意工夫①) |
| | 第5時(本時) | ○自分たちで考えたクライマックスが伝わるように演奏する。 ・表現の工夫を互いに聴き合う。 ・表現の工夫が伝わったか、互いに助言し、新たに演奏のめあてをもって練習する。 | 自分の思いや意図をもち、グループで考えたクライマックスが効果的になるような表現で演奏している。 (音楽表現の技能①) |
| | 第6時 | ○前時の学習を生かして自分たちのクライマックスが伝わるように演奏する。 ・工夫したところを明確にして演奏する。 ・互いの演奏の工夫のよさを認め合う。 | 自分の思いや意図をもち、グループで考えたクライマックスが効果的になるような表現で演奏している。 (音楽表現の技能①) |

7 本時の学習 (5/6)

(1) 目標

自分たちの思いや意図をもち、クライマックスのある「威風堂々」を演奏する。

(2) 展開

| 学習内容と学習活動 | 教師のかかわり ◆評価規準〈評価方法〉 |
|---|---|
| <p>1 前時までを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「威風堂々 第1番」の鑑賞で感じ取ったことや個々の思いをもとにして、グループごとに表現を工夫したことを確認する。 <p>2 本時の学習内容を確認し、めあてをつかむ。</p> | <p>○児童が、鑑賞の学習で感じ取った楽曲の特徴や演奏の工夫を記入した「威風堂々 第1番」の構造図を掲示しておく。</p> <p>○グループごとの拡大譜を用意する。</p> |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自分たちのクライマックスが伝わる演奏をしよう</div> | |
| <p>3 グループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> クライマックスはどこか、どのような工夫をしたかを述べてから発表する。 <p>(予想される児童の考え)</p> <p>「2回繰り返して演奏し、1回目は弱く2回目は強くして強弱の差をつけたい」</p> <p>「最後をオーケストラのように長い音符にして、一番盛り上げて演奏したい」</p> <ul style="list-style-type: none"> 工夫したことが伝わってくるか、拡大譜を見ながら聴く。 互いに聴き合って、表現の工夫が伝わったか話し合う。 | <p>○演奏の仕方の工夫を書きこんだグループの拡大譜を提示し、工夫した点を楽譜上で確認し、活用できるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">＜工夫の観点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反復の仕方 ・楽器の組合せ ・強弱の変化 ・速度の変化 </div> <p>○演奏中、拡大譜の演奏している部分を指し示して工夫したことを聴き取りやすくしたり、友達からの助言を拡大譜に書き込んだりする。</p> |
| <p>4 グループ発表をして明らかになった課題について、グループごとに練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ内で互いの音が聴きやすいように、2グループずつ、2教室に分かれて練習する。 強弱記号や速度記号等のマグネットシートを使い、さらにクライマックスが効果的になるように試行しながら練習する。 2グループで互いに聴き合い、表現の工夫を確かめ合って、次の課題を明確にする。 | <p>○楽譜に書き込みがあるところだけでなく、何も書いていないところはどのように演奏するのかを確かめ、よりよい演奏になるような意欲をもたせるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>◆自分の思いや意図をもち、グループで考えたクライマックスが効果的になるような表現で演奏している。 (表現の技能①)</p> <p>〈表情観察・演奏聴取・発言・ワークシート〉</p> </div> |